

大阪市立自然史博物館研究報告執筆要領

1. 用紙・使用するソフト等

原則として Microsoft Word を用いる。A 4 判を縦長・横書きで使用し、行番号をつけること。上下左右に十分な余白（3cm ぐらい）をとり、文字は 12 ポイント、行間は 24 ポイント（ダブル・スペース）に設定する。英文の場合、行末で語を分割しないこと（自動ハイフン機能は使用しない）。また、行末揃機能は使用しないこと。

2. 投稿論文の構成と配列

- （1）標題，抄録，本文，引用文献，表，図の説明および図で構成し、区分ごとにページを改める。
- （2）標題ページと抄録ページの構成は次の通りとし、標題ページの下部に脚注として、著者の所属とその所在地または住所を日本語と英語（ローマ字）で記す。電子メールアドレスがある場合は、責任著者のものを付け加えることができる。

1) 標題ページ

和文の場合：和文標題，日本語著者名，英文標題，ローマ字著者名，所属，
責任著者のメールアドレス
英文の場合：英文標題，ローマ字著者名，和文標題，日本語著者名，所属，
責任著者のメールアドレス

2) 抄録ページ

和文の場合：英文抄録，キーワード，和文抄録
英文の場合：和文抄録，英文抄録，キーワード

3. 標題 (Title)

英文標題における大文字の使用法は、英語の慣習に従う（文頭以外の普通名詞は小文字で始める）。

4. 抄録 (Abstract)

- （1）長さ 和文で 200～400 字，英文で 100～200 語を標準とする。
- （2）書き方の留意点
 - 1) 著者の伝えたい新規内容を重点的に書く。当該分野だけでなく、関連分野の読者にもわかるよう配慮する。
 - 2) 抄録は標題とともに引用（転載）されるため、標題の内容の繰り返しは避ける。改行はしない。
 - 3) 抄録中では図・表・数式番号などを引用してはならない。文献の引用もしない。

5. キーワード (Key words)

論文の内容を端的に表す英語の語句を 5 語前後選び、英文抄録の次の行に

Key words : …… ; …… ; …… ; …… ; …… と表示する。

6. 本文

本文の構成は、原則として次の順にしたがう。ただし、自然誌資料、総説の場合にはこの限りでは

ない。

1. 序文 (Introduction), 2. 材料および方法 (Materials and methods), 3. 結果 (Results), 4. 考察 (Discussion), 5. 謝辞 (Acknowledgments).

※結論 (Conclusion) を考察と別項目にしてもよい。

7. 引用文献 (Literature Cited)

(1) 書誌要素の構成と配列

1) 雑誌中の論文の場合

1. 著者名, 2. 年号, 3. 標題, 4. 誌名, 5. 巻 (号), 6. ページ. (巻がなく通し番号 No. のみの場合も号数を丸括弧に入れる).

英文論文の中に和文論文を引用するときは, 書誌要素の末尾に (in Japanese with English abstract) のように記述する. 講演要旨を引用するときは, (abstract in Japanese) などとするが, 要旨の引用は極力避けること. 引用論文の標題からでは, 使用言語が分かりにくいときは, たとえば (in Chinese with English summary) のようにする.

例 1 : 初宿成彦 1997. 琵琶湖岸の砂浜環境における甲虫相-海浜性甲虫の分布. 自然史研究 2(13): 181-194.

例 2 : 布谷知夫・中尾七重 1986. 民家の構造材の樹種. 大阪市立自然史博物館研究報告 (40): 21-30, pls. 2-4.

例 3 : Ohtsuka, S. and Hiromi, J. 1987. Calanoid copepods collected from the nearbottom in Tanabe Bay on the Pacific coast of the middle Honshu, Japan. Stephidae. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 32(4/6): 219-232. (in Japanese with English abstract)

2) 1冊の図書を参照した場合

1. 編著者名, 2. 年号, 3. 書名, 4. 版表示 (必要があれば), 5. 出版社名, 6. 出版地名, 7. 総ページ数, 8. シリーズ名 (あれば).

例 4 : 伊藤嘉昭 1970. 動物生態学入門—個体群生態学編一, 改訂版. 古今書院, 東京, 394pp.

例 5 : 付着生物研究会 (編) 1986. 付着生物研究法—種類査定・調査法—. 恒星社厚生閣, 東京, 156pp.

例 6 : 西村三郎・鈴木克美 (内海富士夫監修) 1971. 海岸動物. 保育社, 大阪, 196pp., 64pls. (標準原色図鑑全集 16).

例 7 : Fritts, H.C. 1976. Tree Rings and Climate. Academic Press, London, 553pp.

例 8 : Holme, N.A. and McIntyre, A.D. (eds.) 1971. Methods for the Study of Marine Benthos. Blackwell Scientific Publications, Oxford, 334pp. (IBP Handbook No. 16)

3) 図書の一つの章または一部を参照した場合

1. 著者名, 2. 年号, 3. 標題, 4. 編者名 (あれば), 5. 書名, 6. 版表示 (必要があれば), 7. 出版社名, 8. 出版地名, 9. 参照ページ, 10. シリーズ名 (あれば).

例 9 : 山口寿之 1986. 5. フジツボ類. 付着生物研究会編, 付着生物研究法—種類査定・調査法—. 恒星社厚生閣, 東京, pp. 107-122.

例 10 : Holme, N.A. 1971. 3. Measurement of the physical and chemical environment. McIntyre, A.D. and Holme, N.A. eds., Methods for the Study of Marine Benthos. Blackwell Scientific Publications, Oxford, pp. 30-58, (IBP Handbook No. 16).

4) インターネット上の情報の場合

1. 制作者名, 2. 公開年, 3. タイトル, 4. URL, 3. 最終閲覧日

例 11: 初宿成彦 2017. [いなくなりつつあるセミ]大阪府の今のハルゼミを記録しよう!
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/haruzemi-osaka-pref.html> (最終閲覧日:
2018年3月1日)

例 12: Weber, M.G., Porturas, L.D. and Keeler, K. H. 2015. World list of plants with
extrafloral nectaries. <http://www.extrafloralnectaries.org>. (accessed on 31 January,
2017)

*ただし、推奨される引用例がホームページ中に掲載されている場合はその形式に従う。

(2) 著者名等の表記

- 1) 和文で連名の場合、中点で区切る。
- 2) 欧文で連名の場合、コンマで区切り、最後の著者との間は"and"でつなぐ。第二著者以下においても、姓が名のイニシャルよりも先に来るようにする。
例 13: Nasu, T., Okamoto, M. and Kanazawa, I.
- 3) 本文中の引用において、著者が3名以上のときには、先頭に位置する1名の著者名を記述し、その他の著者名は、和文では"ほか"、英文では"et al."をもちいて短縮すること。
- 4) 同一著者により同一年内に発表された文献は、a, b, ...で区別する。
- 5) 引用文献欄において、同じ著者による文献が続く場合でも、2編目以下の著者名は省略しない。
- 6) 編者のある図書1冊全部を引用する場合、編者名は文献欄の初め(著者の位置)に、役割表示(ed., comp., 編など)を付して表示する(例8)。
- 7) 編者のある図書の一部を引用する場合、編者名は役割表示を付して、書名の前に記述する(例9, 例10)。
- 8) 引用者が必要と判断した場合、監修者名を表示することができる(例6)。

(3) 論文名

欧文における大文字の使用法は、原文の言語の慣習にしたがう。

(4) 誌名

- 1) 誌名は、略記せずに完全誌名を記述する。
- 2) 英文論文において和文誌名を引用する場合には、欧文誌名を持つものはそれを記す。無い場合はローマ字書きとする。正式な欧文誌名のないものに対して、欧訳誌名を付けてはならない。中国語の誌名もこれに準じる。ロシア文字などローマ字アルファベット以外の文字で表示された誌名は、ローマ字へ翻字する。
- 3) 欧文誌名記述の際の大文字使用法は、冠詞、接続詞、前置詞を除く各語の初字を大文字とする。ただし、誌名の初語の初字は、常に大文字とする。

(5) 書名

- 1) 書名はタイトルページまたは奥付に記載されているとおりに記述する。
- 2) 欧文書名記述の際の大文字使用法は、冠詞、接続詞、前置詞を除く各語の初語を大文字とする。ただし、書名の初語の初字は、常に大文字とする。
- 3) 英文論文において和文書名を引用する場合、書名は原則としてローマ字で記述し、英文書名の必要があれば英訳し、ローマ字書名の後に丸括弧に入れて付記する。

(6) 出版者

出版者が、団体著者名あるいは書名の一部として記載されている場合には、省略してもよい。

(7) 出版地

出版者の所在する都市名を記述する。出版地が複数の場合には、最初に記載されているものを記述する。

(8) ページ

- 1) 雑誌から引用したページの表示は、はじめのページと終わりのページをハイフンで結び、数字の前にコロンを付ける (例 1, 2, 3)。プレートも引用する場合は、ページの表示の後に、"pls. xx-xx"と続ける (例 2)。
- 2) 図書 1 冊を引用したときは、その本文の総ページ数を、アラビア数字の後に"p(p)."を付けて表示する (例 4, 5, 6, 7, 8)。ページと別立てのプレートがある場合は、総プレート数の後に"pl(s)."を付けてページの後に続ける (例 6)。
- 3) 図書の一部から引用したページの表示は、はじめのページと終わりのページとをハイフンで結び、数字の前に"pp."を付ける (例 9, 10)。
- 4) ページが連続していないときは、次のように記述する。

例 12 : (図書の一部からの引用) : pp.15-20, 22, 24-29.

- 5) ページ付けが章ごとに分かれている場合には、章番号をページの前に記し、区分記号としてピリオドを用いる。

例 13 (図書の一部からの引用) : pp.10.61-10.67 (10 章 61 ページから 10 章 67 ページまで)

(9) シリーズ記述

図書 (論文集, 会議報告を含む) が、シリーズ名をもっているときは、シリーズ名と巻数、号数等を丸括弧に入れて記述する (例 8, 10), ただし、シリーズ全体の書誌記述をするときは、シリーズ名を書名とする。

8. 図 (Figure)

英文の標題・説明を付け、Fig.1. ……と表示する。和文での表題・説明も併記することができる。説明原稿は、図とは別の用紙に記す。

9. 表 (Table)

表ごとに別のページに記し、すべて英語を用いて作成する。和文での表題・説明も併記することができる。上部に Table 1. ……と表示する。

10. 学名の字体

生物の属およびそれより下位の学名はイタリック体とすること。

11. 新種記載の際の GUID の獲得, 表記について

新種名の後に、Life Science Identifier (LSID)の様式に従って、the globally unique identifier (GUID)を記載する。

GUID の取得及び表記は、原稿が受理となった後に、編集委員会で行うものとする。

追記 : 「自然史研究」の原稿もこの執筆要領に準ずる。